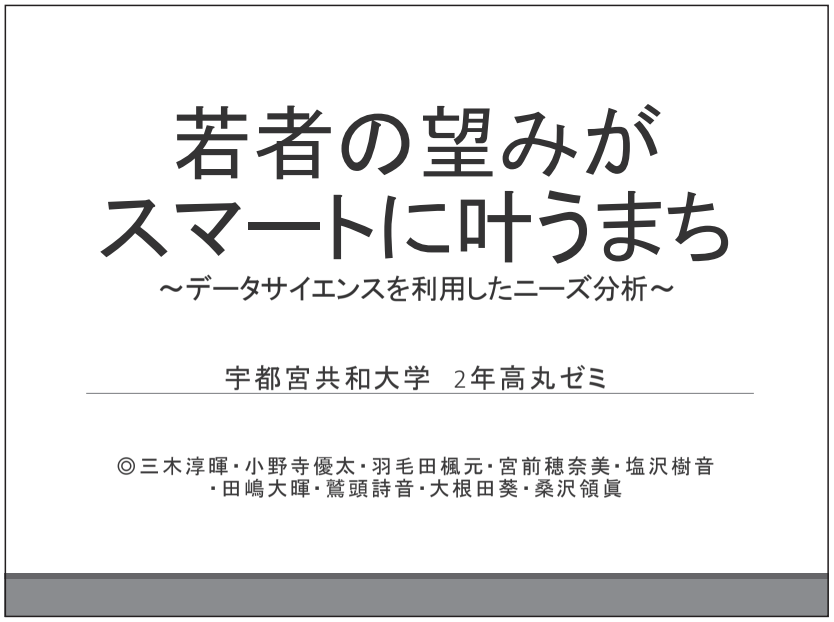
学生提案成果報告②

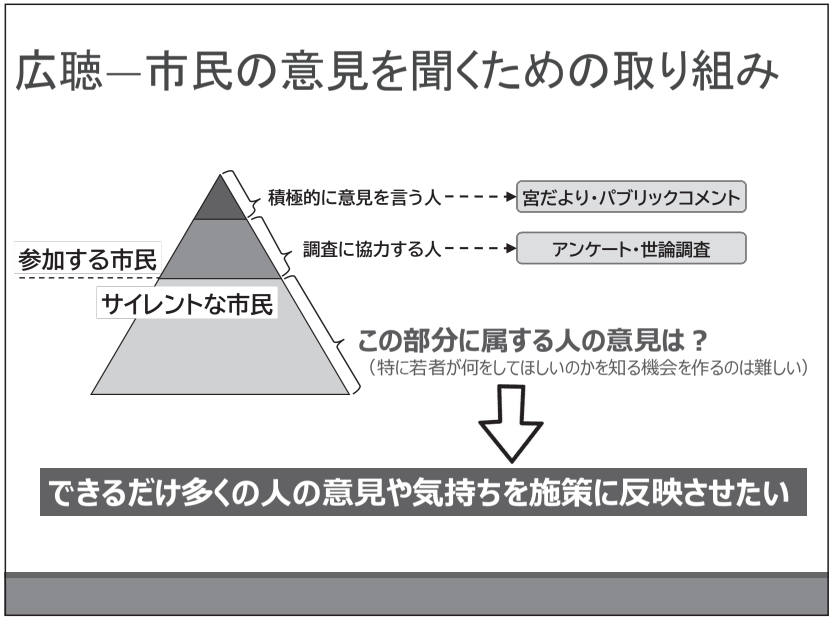
若者の望みがスマートに叶うまち ～データサイエンスを利用したニーズ分析～
提案団体名：宇都宮共和大学２年高丸ゼミ
メンバー：◎三木淳暉，小野寺優太，羽毛田楓元，宮前穂奈美， 塩沢樹音，田嶋大暉，鷲頭詩音，大根田葵，桑沢領眞
指導教員：高丸　圭一

【提案の要旨】

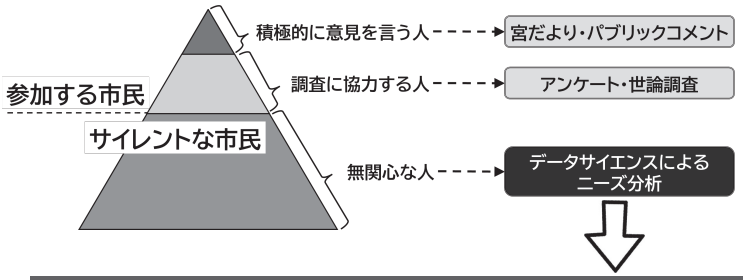
まちづくり提案の内容を決めるにあたって「若者にとって魅力がある（来たくなる、住みたくなる）まちとはどのようなまちか」ということを出発点にゼミ生で話し合いを始めた。10人のゼミ生からは「公園にバスケットゴールを増やしてほしい」「大規模な音楽フェスを誘致してほしい」「ご当地のVTuberにまちをアピールしてほしい」などジャンルが異なる多様な意見が出た。このような若者の多様なニーズの中には、市が取り組むべき施策や、若者の魅力を集める有効なアイディアが含まれているはずである。しかし、このようなちょっとした思いつきをわざわざ市役所に伝えることはない。私たちはこのような「有用かも知れない意見」が拾われないままになってしまうのはもったいないと考えた。

若者にとって魅力あるまちづくりをすることは、これからの宇都宮にとって非常に重要なことであるが、若者の地方自治への参加意欲はそれほど高くないという問題がある。参加意欲のある市民（参加する市民）は、意見募集などに対して積極的に回答するが、参加意欲の高くない市民（サイレントな市民）のニーズを幅広く吸い上げるのは難しい。そこで、本提案では「ICT技術とデータサイエンスを利用した若者のニーズの分析」に基づく施策立案プロセスを提案する。





提案の目的



サイレントな市民のニーズ（意見や気持ち）を
データサイエンスを利用して推測し、**施策に反映**する

インターネット投票の先行事例（つくば市）

メリット	•**誰でも簡単**に投票できる •投票は**1～2分**で完了
実証実験	•公募案件の採択 •市内高校における生徒会選挙
安全なシステム	•本人確認、改ざん防止 •秘密投票の保証

2024年の市長・市議選で導入を目指している

サイレントな市民の意思を反映するビッグデータ

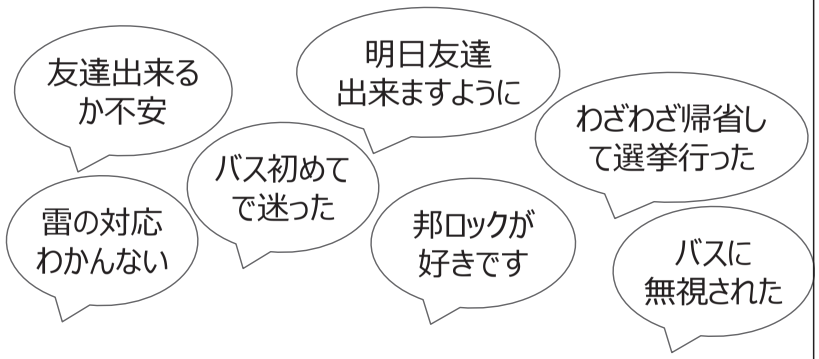
宇都宮で暮らすと、いつも通り行動して、いつも通りSNSを使っているだけで、自分たちのニーズに沿った施策を行政が行ってくれる

予備実験Ⅰ：ツイートの分析

宇都宮市在住の**大学生**のツイート
約1800件を収集

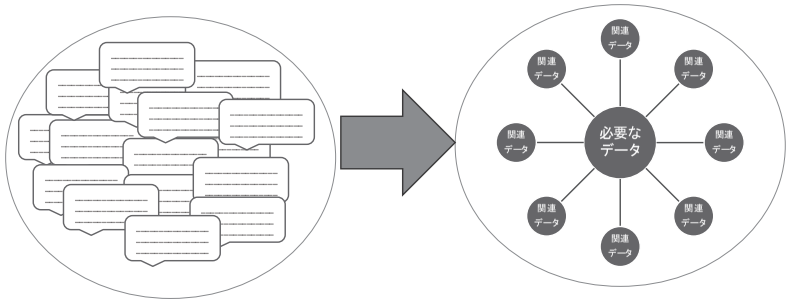
施策の種となる**若者のニーズ**を
含むツイートを手作業で分析

SNSに実際に投稿されていた内容



テキストマイニング

自然言語処理などを用いて、
大量の文章データから**有益な情報を発掘**する技術



SNSの投稿に基づく施策案

- 友達作り・仲間作りの施策
- 公共交通を分かりやすくする施策
- 選挙、住民票移動などの案内
- 雷や停電への対策方法を知らせる
- 大規模ロックフェスの誘致/後援

SNSの中に施策の種になるツイートはある！

予備実験Ⅱ：行動データの分析

宇都宮市在住の**大学生**延べ**35日分**の行動履歴
滞在場所、時間、移動手段などを収集（自己申告）

若者の行動を手作業で分析

予備実験Ⅱ：行動データに基づく施策案

【行動履歴】	【施策案】
■ 時間帯：平日の朝 ■ 場所：宇都宮市の大通り付近 ■ 移動手段：**自転車**	**通学時間帯に自転車が安全に走れるように整備する**
■ 時間帯：土日の夕方 ■ 場所：自宅付近の**コンビニ** ■ 移動手段：徒歩	**コンビニ食だけでなくバランスのよい食事と健康を呼びかける**
■ 時間帯：平日の夕方 ■ 場所：**●●駅** ■ 移動手段：自家用車	**●●駅に送迎のための自家用車が待機するスペースを作る**

施策事業の提案―実施手順

手順①「サイレントな市民」のニーズを含むビッグデータの収集

SNSの投稿　行動履歴　その他データ

手順②ニーズに基づく施策案（候補）を作成

施策A　施策B　施策C　施策D

施策事業の提案―目指す姿

市民のニーズがわかった！施策に反映しよう！

特別なことはしてないのに、前より暮らしやすくなった！

行政

サイレントな市民

施策事業の提案―実施手順

手順③インターネット住民投票で実施施策を選択

施策A　施策B　施策C　施策D

「サイレントな市民」にも「参加する市民」にもうれしい住民本位の施策の実現

https://pictogram2.com/